

《資料 2024年度町田市登録有形民俗文化財候補》(案)

【成瀬の天狗型道祖神(3基)】

種 別：町田市登録有形民俗文化財

所 在 地：①町田市成瀬5丁目4995番地 山之根稻荷神社境内
②町田市南成瀬4丁目19番地14 西山児童公園内
③町田市南成瀬8丁目11番地33

所 有 者：①不詳
②不詳
③不詳

内 容：成瀬の天狗型道祖神(3基)

製作年代：①元文2(1737)年7月
②享保14(1729)年1月
③不詳(近世)

沿 革：①元文2(1737)年7月、山之根村氏子により造立される(刻銘より)。山村橋(現都営団地北)のたもと、成瀬堰引堀土手にあった。昭和40年代の区画整理により現地へ移設される。
②享保14(1729)年1月、木目田講中により造立される(刻銘より)。西山橋たもと西之久保新坂下の崖上にあった。区画整理により現地へ移設される。
③東光寺村氏子により造立される(刻銘より)。平成28(2016)年東光寺講中により現地整備記念式典が举行される。

法 量：①高67×幅35×奥行18cm
②高105×幅48×奥行27cm
③高65×幅38.5×奥行12cm

現 状：①形状は駒型で、正面に浮彫型の天狗立像と銘文「奉造立 登神 武弼多摩郡成瀬山之根村 元文二丁巳七月吉日 氏子惣施口」が刻まれ、台座には銘文「[]田信[] 武藤[] 武藤文[] 武藤太良[] 落合又[] 落合[] 落合作[] []六[]」が刻まれている。塔身には剥離が多くみられ、像容は、顔、右腕、両腿部分が欠損しているが、背中に羽をつけた修験のような姿が確認できる。安山岩か。同境内に宝塔(文化2年か)と崩れている宝篋印塔がある。
②形状は駒型で、正面に浮彫型の天狗立像と銘文「奉造立祭神 武弼多摩郡成瀬村 享保十四年正月吉日」が刻まれ、台

座には銘文「氏子 木目田治右衛門 同苗七良右衛門 同苗仁兵衛 同苗市良右衛門 同苗武左衛門 中里仁左衛門 同苗三左衛門」が刻まれている。塔身を横断する亀裂があり、一部欠損しているほか、像容の顔面は剥離しているが、頭巾をつけ背中に羽をつけた修験のような姿が確認できる。安山岩か。同公園内に地神塔（天保12年）、道祖神（安永2年）、地藏尊（享保14年）がある。

③形状は舟型光背型で、正面に浮彫型の天狗立像と銘文「奉建立 道祖神 武弼成瀬 東光寺村惣氏子」が刻まれている。像容の顔面は表面が削れており、が、右手に団扇、左手に杖を持ち、頭巾をつけ背中に羽をつけた修験のような姿が確認できる。安山岩か。同地内に庚申塔（享保8年）、馬頭観音（年代不詳）、道標（天保13年）がある。

登録理由： 成瀬地区に存在する1700年代に造塔された正面に天狗の像容を配した3基の単体像道祖神 塔である。

3基のうち、③の道祖神塔については、1960年代頃から研究者の間で、珍しい像容の道祖神塔として注目されており、1975年に初版が発行された庚申懇話会編『日本石仏事典』においても、清水長明氏が「珍しい例として、天狗を浮き彫りにした道祖神が町田市成瀬にある。」と紹介している。

天狗の像容については、烏天狗か天狗童子かという二つの見解があるが、本体の頭頂部と天狗の鼻の部分の一部が欠けており、現状では結論付けることはできない。しかし、『新編武蔵風土記稿』成瀬村の項に本山修験の五大院があったとの記述などからは、近隣に修験者の存在を窺い知ることができ、修験との関連性は深いものと推察され、3基の天狗型の道祖神塔が同地区内に存在することからは、成瀬地区に固有の道祖神信仰があったことがうかがい知れる。

天狗の像容が刻まれた道祖神塔は、全国でも他に例がなく、さらにそれらが3基同一地区に存在していることは、たいへん希少性が高く文化的価値が高いといえる。また、これらの道祖神は、コロナ禍以前の2020年頃まで正月のどんど焼が実施されていたものもあり、今なお地域の信仰を伴っている。

また、本件の3基の道祖神は、本尊として天狗像が刻まれていることが最大の特徴であるが、市内に残存する1700年代前半に造塔された時代の古い単体像の道祖神塔としても

貴重なものであるといえる。道祖神塔全体の分布は、境川を境としてその西側（旧相模国）に圧倒的多数が分布し、要因ははっきりしていないが東側（旧武蔵国）に入ると造塔数は激減する。単体像の道祖神塔は、道祖神としては古い型のもので、1700年代前半にその多くが造塔されている。その後、1700年代後半を中心に、一般的に知られる双体像の道祖神塔が造塔され、その後の1800年代以降は、文字塔が中心となっていく。2015年度から2018年度に市教育委員会が実施した市内石造物の調査によると、市域内に存在する道祖神は34基で、そのうち1700年代に造塔されたと考えられる単体像は本件の3基を含め6基のみであった。

なお、②の道祖神塔については、寸法が高さ105cmと大きいことも特筆すべき点である。高さ100cmを超える道祖神塔は近隣地域をみても珍しく、希少性が高いものであるといえる。

以上のことから、成瀬の天狗型道祖神塔（3基）は、町田市固有の地域の歴史、文化を理解する上で、また全国的に見ても、石造物としての文化財的価値が高いものとして、保護・保存するに値するものであると評価でき、町田市登録有形民俗文化財としてふさわしい。

①



②



③

